

平成26年度農作物病害虫発生予察情報 注意報 第1号

平成26年 5月21日
秋田県病害虫防除所

イネヒメハモグリバエの産卵数が多い ～発生状況を確認して、被害初期に防除してください～

1 病害虫名：イネヒメハモグリバエ

2 発生作物：水稲

3 発生地域：全県

4 発生量：多い（第1世代）

5 注意報発表の根拠（現在までの発生状況と今後の発生予想）

- (1) 5月19日に実施した県中央部の巡回調査では、多くのほ場で産卵が確認され、株当たり卵数は0.74個で、前年（2.02個）より少ないが、2008～2010年の平均値（0.02個）と比較して多かった（表－1）。産卵株率は26.5%で、前年（49.6%）より低い、2008～2010年の平均値（1.5%）と比較して高かった（表－2）。
- (2) 今年の産卵数はほ場間差が大きく、要防除水準（株当たり卵数が1.5個又は産卵株率が50%）を超えるほ場と産卵が認められないほ場が混在している状況であった（表－1、2）。
- (3) 県中央部の調査結果から、産卵数のほ場間差が大きいものの全県的に発生量が多いと予想される。現在、産卵が多いほ場では、今後、急激に幼虫による食害が発生することが懸念される。
- (4) 仙台管区气象台から5月15日に発表された1か月予報によると、向こう1か月の気温は平年より低いと予報されている。そのため、今後、幼虫の生存率が高まり被害が拡大したり、産卵数が増加する可能性があることから注意が必要である。

6 防除対策

産卵数のほ場間差が大きいため、ほ場をよく観察して発生状況の把握に努める。卵は白色で長さ0.7mmの長楕円形、深植えや深水等により水面に浮いた葉身の葉脈に沿って産み付けられる（図－1）。幼虫は乳白色のウジでふ化後ただちに葉肉内に潜入し食害するため、発生が多い場合は葉が枯死する（図－2）。

産卵数が多いほ場では、以下の防除対策を行う。

- (1) 平均気温が15℃の場合、卵は7日前後でふ化するので、幼虫による食害が見え始めたらトレボン粉剤DLを10a当たり3kg散布するかトレボン粒剤を10a当たり2～3kg水面施用する。または、スミチオン乳剤2,500倍かエルサン乳剤2,000倍を10a当たり100リットル散布する。
- (2) 移植3日前～移植当日にブイグットグランドオンコル粒剤、ブイグットフェルテラ粒剤、ルーチンアドスピノ箱粒剤、BASFプリンス粒剤のいずれか又は移植当日にフェルテラ箱粒剤を育苗箱施用した場合は、本種に有効であるため、あらためて（1）の追加防除をする必要はない。

7 資料

表一 イネヒメハモグリバエの株当たり卵数の年次比較(5月19日調査)

地点名	卵数/株		
	2014年	2013年	2008～2010年 平均
五城目町上樋口	1.19	0.92	0.02
大瀧村方上	1.35	1.59	0.01
井川町小竹花	0.47	0.41	0
秋田市金足	1.52	2.41	0.01
秋田市上新城	1.47	0.85	0.01
秋田市下浜	-	4.67	0.02
由利本荘市岩城内道川	0.18	-	-
由利本荘市及位	0.16	2.83	0.08
由利本荘市鮎瀬	0	-	-
由利本荘市新上条	0.14	1.39	0.03
由利本荘市矢島町元町	0	3.14	0
にかほ市平沢	0.08	-	-
にかほ市象瀧町本郷	2.34	-	-
平均	0.74	2.02	0.02

注：-は未調査、要防除水準は株当たり1.5個

表二 イネヒメハモグリバエの産卵株率の年次比較(5月19日調査)

地点名	産卵株率(%)		
	2014年	2013年	2008～2010年 平均
五城目町上樋口	52	31	1.0
大瀧村方上	44	41	0.3
井川町小竹花	34	15	0
秋田市金足	60	60	0.5
秋田市上新城	40	28	0.7
秋田市下浜	-	61	0.7
由利本荘市岩城内道川	5	-	-
由利本荘市及位	5	83	4.0
由利本荘市鮎瀬	0	-	-
由利本荘市新上条	12	53	4.0
由利本荘市矢島町元町	0	74	0
にかほ市平沢	7	-	-
にかほ市象瀧町本郷	59	-	-
平均	26.5	49.6	1.5

注：-は未調査、要防除水準は産卵株率50%



図一 イネヒメハモグリバエの卵



図二 イネヒメハモグリバエ幼虫による食害

【 問合せ先 】

秋田県病害虫防除所 TEL 018-881-3660
 秋田県農業試験場 TEL 018-881-3326
 掲載HP <http://www.pref.akita.lg.jp/bojo/>